

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

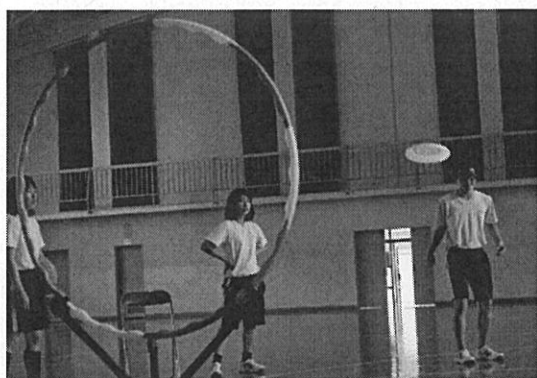
道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立京都八幡高等学校（南） 】

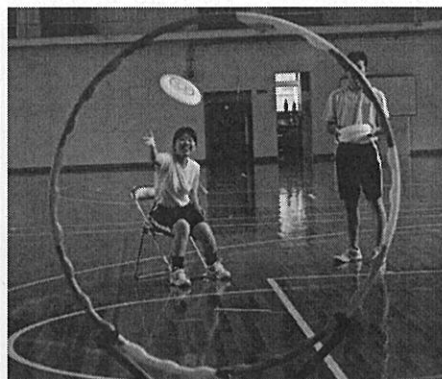
1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	1. 高校3年生 1組22名 2組25名 計47名 2. 人間科学科3年1組 22名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育 総合的な学習の時間) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	八幡支援学校との授業交流や保健体育の授業において、ニュースポーツやパラリンピック種目を体験することで関心を深めるとともに、サポートの在り方を学ぶ。
5 取組内容	<p>1. 教科において障がい者スポーツ・ニュースポーツの実施</p> <p>(1) 対象 高校3年 1組22名 2組25名 計47名</p> <p>(2) 日時 6月、10月～11月の体育の授業（1単位）において実施</p> <p>(3) 場所 本校体育館</p> <p>(4) 内容 ア 車いすバスケットボール、シットイングバレー、ペタンクの3種目を3グループに分かれて1時間1種目を順番に、各種目2回ずつ実施。</p> <p>イ ゴールボール、ボッチャは、実習や授業の関係で1クラスしか授業がない時期に実施。</p> <p>ウ フライングディスク（アキュラシー）は、12月に実施される八幡支援学校との授業交流における事前学習として実施。</p>



車いすバスケットボール



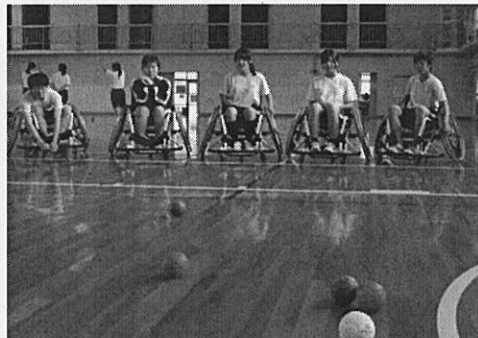
フライングディスク (アイマスク着用)



フライングディスク (いすに座って)



ゴールボール (アイマスク着用)



ボッチャ (車いす)

2. 人間科学科3年と八幡支援学校高等部との授業交流

- (1) 対象 人間科学科3年1組、八幡支援学校高等部就労デザインコース
- (2) 日時 平成29年12月11日(月)、平成30年1月18日(木)
- (3) 場所 本校体育館
- (4) 内容
 - ア 集合・挨拶・本時の流れの説明・チーム分け
 - イ ボール運びリレー
 - ウ フライングディスク
 - エ ドッジビー
 - オ 結果発表・感想の発表
 - カ まとめ・挨拶・チームごとに写真撮影



6 主な成果	<p>1. ニュースポーツ・障がい者スポーツへの関心と理解の深化 本校は将来、対人援助職に就きたい生徒が多い専門学科（人間科学科・介護福祉科）であるため、3年生になると2学期の体育1単位にて障がい者スポーツを実施している。また、授業や実習の関係で1クラスのみ授業があるため、ニュースポーツや障がい者スポーツを実施している。少ない時間数ではあるが、取組の中でアイマスクや車いす等を使用しながら行うことによって、ただ不便に感じるのではなく、どうすれば得点を得られるか、勝つことができるか等について、チームで協力したり、自らの身体の使い方などを互いにアドバイスをし合ったりする姿が見られた。</p> <p>2. 授業交流を通じた信頼関係の育成 本校の人間科学科は、隣接している八幡支援学校と継続的な交流を実施してきている。6月にも体育での授業交流を実施していたため、12月・1月では、より深い交流を進めることができた。今回は体育祭の交流競技として実施する予定だった“ボール運び”を行った。今年度、体育祭が台風の影響により延期となり、支援学校が予備日に参加することができなかったため、この機会に行った。また、前期には実施しなかったパラリンピック種目である“フライングディスク”を一緒に行った。フライングディスクについて、本校の生徒は体育の授業で先行実施をしていたが、5m7m先からディスクを投げる技術が乏しく、支援学校の生徒からアドバイスをもらいながら共に作戦を考え、実施をしている場面が多く見られた。体育祭での交流競技が中止されたことを残念がっていたため、今回このような形で実施でき喜んでいる姿が見られた。フライングディスクについても、アドバイスをもらいながら行い、できた時の喜びを共に味わうことや、信頼を深めることができた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>1. 種目に取り組むだけでなく、アイマスクや車いす等を使用し、障がいに対して、共感的・体感的に経験できるよう工夫した。</p> <p>2. チーム内でメンバーが固定化しないように、競技ごとにチーム分けを工夫した。</p>
8 主な課題等	<p>1. 昨年度の課題から、今年度はボッチャを購入し取組の幅が広がった。しかし、昨年度同様、車いすバスケット用の車いすの老朽化が進んでいるため、修繕または買い換えが必要。しかし、高価なものであり難しいというのが現状である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>今年度同様、体育の中でニュースポーツ・障がい者スポーツを実施していく。八幡支援学校との交流については、今後も授業交流以外に昼休み交流や行事交流を通じて実施していく予定。</p>